令和５年度　第１回社会教育委員会議　会議録

日　時：令和５年７月１０日（月）午後２時００分～午後３時３６分
場　所：苫小牧市役所第二庁舎　２階　北会議室

出席委員　藤島議長、北岸副議長、柴田（知）委員、池田委員、今田委員、柴田（都）委員、東委員、大西委員（８名）
欠席委員　坂木委員、植田委員（２名）
事 務 局　教育委員会：斎藤教育部次長
生涯学習課：河本課長、斉藤課長補佐、仲世古主任主事

１　開　　会　　（進行）河本生涯学習課長

（１）委嘱状交付　　福原教育長
※柴田（知）委員、池田委員へ交付

（２）挨　　拶　　福原教育長

２　諮　　問　　第五次苫小牧市子どもの読書活動推進計画策定について

３　議　　事　　（進行）藤島議長
（１）第五次苫小牧市子どもの読書活動推進計画策定について
※資料に基づき、事務局（仲世古主任主事）より説明

＜質疑の内容＞
○藤島議長　ただいまの説明、かなり要約してご説明いただいたんですけども、何かご質問等ございますでしょうか。特に評価基準の低かったところですね、ＤとかＦだとかというのがあるので、この辺のところどうしてかというのを確認したり、次の５か年の取組がうまく機能するかどうかというのをちょっと一緒に見ていただければなと思います。
○委　　員　ここの評価基準って何ランクあるんですか。Ｆというのも見える。
○藤島議長　Ｆまで一応書いてありますね。
○委　　員　Ｆが最低ランク。
○事 務 局　基本的にはＡからＥまでございまして、検証の上のほうにちょっと書いているんですけれども、Ａは十分取り組めた、Ｂがまあまあ取り組めた、Ｃは計

画以前と同様の状況である、Ｄについてはあまり取り組めなかった、Ｅについては全く取り組めなかったということで、ご評価いただいております。Ｆにつきましては、実態把握ができませんでしたということで、そのどこにも当てはまらないという意味合いでつけさせていただいておりますが、基本的には５段階評価でご確認をいただければと思います。

○委　　員　自己評価は基本的には頑張ったよというふうに評価されているかなというふうに思うんです。コロナや様々な条件の中で、担当される方はじめ、ご奮闘いただいたんだなというふうに僕も見ながら、なるほどなと思いながら見ていたんですが。ただ、そういう厳しい状況だったということはあったけれども、それなりに計画を実行し得た中で、目標を達成できなかったというところが、どういう点があるか教えていただければと思います。

○事 務 局　この資料４の部分で、目標の達成がなかったということでございますね。

○委　　員　一度は達成していたけれども。

○事 務 局　この資料では、やっぱりコロナでその差が出てきているのかなといったところが出てくるとこなんですけども。

○事 務 局　先ほど読んだのかもしれませんけど、今の、聞こえていたかもしれませんけど、やはり一応この目標だけ、一度達成したからある程度よくなったところ以降の部分が、やはりコロナの影響もあって、図書館が利用できなかった時期とか、学校自体が、例えば子供同士が交流を図れない、図書館自体も閉館していた時期もありますので、そういったことが多少なりとも影響しているんじゃないかと事務局としても考えてはおりますけども、決定的なところが何かというと、なかなか難しいところがあるのかなというふうに思います。その辺りも含めて次期計画の中で、どうすれば達成していけるかというのを考えていければと思っております。

○藤島議長　ＡとＢの境目というのが非常に微妙になっているのかな。具体的にどう違うというのは、説明しないと分からないんでしょうね。

○事 務 局　そうですね。どうしても自己評価になりますので、主観的な部分がかなり入っているかとは思います。

○委　　員　ただ、Ｃが前年と同じだよということだから、Ａ、Ｂというのは、議長の言われるように、ニュアンス的には微妙な差なんだろうけども、前進していたんだよという評価になるんじゃないかなと思うんですね。ただ、今すぐ改善はできないと思うけども、要はこれだけ高い評価が得られるために頑張ったんだけれども、前進できなかったというのは、今までの計画の延長線上で行っていても、抜本的な改善というのは難しいんだなという感想を持ったんです。だから、その点でやっぱり抜本的に評価していくという点でネックになっているのはどこなのかなというのを、今日見ただけで、十分な時間いただ

いて説明いただいているわけじゃないから見えないけれども、その辺の抜本的な強化をする必要性と、その加減というのはどこなのかという押さえ方が、もうちょっと詰めたほうがいいかななんていうふうに思うんですけどね。ちょっと資料読んで、へえと思ったんですけども、本を読まない子が２０％から３０％だよってなっている、目標と結果になっているようなんですが、読む子は６割前後いるよというのは、程度の問題もあるけども、すごく高いなという感想を正直持っていたんですけど、実態としてはどうなんでしょうね。

○事 務 局　現場で普段接しているところの肌感覚というところのお話でよろしいでしょうかね、今のお話は。こちらの数字では確かにこういう形で数字が出ていますけども、小学校、中学校の教育現場の中では、先生方の印象ということでお答えになってもらえればよろしいでしょうかね。

○委　　員　小学校の方なんですけども。学校によって差が見られると思います。本校では、サッカーゴールを設置しているので、男子などは、ほぼ休み時間は外へ出て汗を流して帰ってくるような状況で、本を借りたくても、そういったほうが優先されていて、なかなか。そういう機会はあるんだけども、なかなか読書のほうに向かないということが一つあると思います。それと、授業で図書室に出かけて借りたりするような、そういった動きがたくさん取れればいいんですけども、教室の主の学習もありますので、なかなかそういったことで図書の活動と休み時間の運動等の絡みといいましょうか、できている学校、図書率が高くなっている学校とどうしても低くなる学校とあるんじゃないかなと思います。それは学校での方針なり、取組の仕方なり、そこで何か変わってくるのかなと思います。遊んでいる子も週１回は図書を借りましょうという、もし、そういう取組型の学校であれば、やはり読書、借りる率も高くなって、読書も多くなる。けど自由にどうぞとなると、ほぼほぼサッカーやってる。やっぱり学校の中の施策次第でちょっと変わってくるんじゃないかなと思っています。

○委　　員　学校図書の質、辞書なんかも全く違う解釈になっているのが載っている。少し予算を入れて、学校だとか、この児童センターの話もありますけども、そういうところに随時、いい本というか、最新の情報を見て切り替えていく。そういう流れというのはどうなんでしょうか。学校教育でやるよとか、社会教育でやるよとか。

○斎藤次長　学校教育での学校図書館の取組、私もずっと取り組んで、１０年ぐらいですかね、小学校のほうは学校司書というのを市で同時に入れて、お金かけて整備していたんですね。そのかいもあって、授業で活用したり、本の入替えとかも大分進んで、小学校の図書館という、まあ図書室ですけど、大分整備進んだんじゃないかなと思っています。ただ、中学校のほうは、そこの司書の

配置というのが進まなくて、そもそも中学生が学校で本を借りる時間というのは、例えば部活動とか学習に時間取られて、そこに人を配置する意味とか、いろいろな議論があってなかなか進まないんですよ。なので、中学校のほうは図書の入替えというのも、先生たちも時間取れないですし、なかなか進んでない状況はあります。そういったことも数字に少し表れているのかなという感じがありますけど。引き続き、具体的には必要なので。

○委　　員　当時、自然の動植物の図鑑だとかいうのも、小学校のときにあったやつと同じだなとかという話も新聞に載っていたのがあったんだけど、そういう最新の情報となぜ入れ替えないんだという議論もちょっとあったような気がしたんで。中学校は今、そういう状況だというのなら、せめて小学校はそういう状況で予算取りながら入れ替えたり、新しいものになったり、司書さんも管理されている。

○委　　員　事典とか辞書って最新の情報を知りたいので更新を考える。予算ついたら、国語辞典やら漢和辞典はある意味古くてもできるんですけど、事典というのはどうしても新鮮な情報を知りたいので、更新する、アンテナを高くしてるとは思いますけど、たまに寄贈、古い事典を地域の方が持ってこられる場合があります。

○委　　員　何百冊も持ってきたけども、二、三冊しか使えないということありました。だけど、本というのは辞書だとかそういうものについては切り替えというのはある。いい本というのは長く読まれる本もあると。でも相当昔の絵本がまだ、いまだに子供の中で人気があるというものもたくさんある。そういう良質なものは破けると直したり、入れ替えたりもしなきゃならないとは思いますけども、課題になるのは中学校にあるというのは本当に、おっしゃるとおり。事務局からもお話のあった、そういうものは少し絞っておいたほうがいいんじゃないかなという感じがします。

○藤島議長　この前、中央図書館へ行って本の種別、こういう本少ないから増やすことができるんですかって聞いたんですよね。そしたら、カウンターに来て、具体的にどういう本が読みたいんですか、教えてください、場合によっては購入しますからという話だったんだけど、学校という場では、本を子供たちが読みたいとか、そういう要望というのは上がってくるんですかね。というのは、さっきのアンケートにもあったように、読みたい本がないって、結構多いですよね。じゃあ、読みたい本というのはどういう本なのかという、ちょっと分からないんで、具体的に子供たちに聞く機会があるのかどうか。

○斎藤次長　各学校で取組状況違いますけど、小学校のほうは学校司書さんが入っているので、子供たち、例えば児童会とかと連携して読みたい本を子供たちから吸い上げて、その中で司書さんが選定しているので、読みたい本と読ませたい

本というのをきちんとバランス取って各校でやってくれていると思いますが、司書さんが入る前は、子供たちの読みたい本といったら、はやりの「ハリー・ポッター」が何冊もあったり、そういう管理ができてなくて、一時的に読みたい本ばかりそろえているような状況とかもあったので、今、学校司書さんが入って、そういうバランスを取ってくれているというのが小学校の状況です。

○藤島議長　とすると、その傾向、統計なんかは司書さんが取っているんでしょうか。今年はこういう本を子供たちが要望している、傾向としてはこういうのとか、そういう統計みたいなのは取ってないんでしょうか。

○斎藤次長　数字まで出てくるかどうかは分からないんですけども、ちょっと現場に聞いてはみます。

○藤島議長　何かそういうのが分かればね、子供にとって、司書さんが選んだ本が子供が読みたい本に類するのかなという気がしないでもないんですけども。

○委　　員　司書さんの身分というのはどうなんですか。学校に備わっているというのは非常に高く評価できるかなと。昔は全然いなくて、かなり批判を浴びたというのがあったりして、今は本までそろっている。その身分というか、嘱託だとか臨時だとか。

○斎藤次長　身分的には市の会計年度職員です。司書資格を持っていて、毎日一つの学校にいるわけではなくて、巡回して１人が２校、３校って回ってもらうという感じです。一応、今までどおり、親御さんの普通のボランティアだとか、手伝ってくれる方もいますし、そういう方と、あと学校の先生とをつないでくれる役割。

○委　　員　分かりました。

○藤島議長　そうすると、１人の司書が何人ぐらいの生徒を持っていることになるんですか。さっきの話じゃないけど、たくさん見れば見るほど傾向というのは分かってくるので、１人１校じゃ難しいかなという気はしないでもないので。

○斎藤次長　そうですね、学校の規模にもよるので、１人の司書が何人という、一概に言えないですけども。かなり多くの数を見ている計算にはなりますけど。

○委　　員　司書さんと何か協議会とか、何らか本の打合せだとかというのは、例えば社会教育が主体とか、学校教育が主体で何かやって、今年度の図書のことを、そういうのがあるの。

○斎藤次長　毎年１回ぐらいですけども、学校の司書と任用している司書さんと、あと、学校に必ず図書担当の先生というのがいるので、そこと併せて、あと中央図書館にも入ってもらったりして、研修会みたいなのしています。

○委　　員　研修会か。

○委　　員　複数の学校を担当されている方がおられるよというのは、実際の司書さんの

動き、話を聞いて了解したんですが、司書さんとして配置されている方は何人おられますか。

○斎藤次長　すみません、具体の数字がなくて正確ではないですけど、１０人か、その前後ぐらいの数だと思います。

○委　　員　１０人ぐらい。

○委　　員　全く話は別なんだけど、最近、感想文だとか論文だとかって、ＣｈａｔＧＰＴ使って出すという、親が子供に対して、それを使うんじゃないかという危惧があって。例えば、読書感想文なんか、最終的に出てきたものを多少訂正して、親が。そして出すと。それで金賞になると。別にいいんだけど。新聞で何かそういう論調を張った人もいて。どうするんだろう、認めないよとか。誰が情報管理、でも、これから起こる可能性はあるわけだから。

○斎藤次長　そうですね。一応、生成ＡＩという、ＣｈａｔＧＰＴだとかというのも、今、文科省から通知下りてきたばかりで、それを市としてどうというのはあまり、まだ方向性もしっかり定まってはいないんですけど、夏休みとか、子供が自主的に子供の宿題とかに使うのはやめましょうという指導だとか、先生が授業管理に使うのはいいとかという、その辺は国の方針どおりでやろうとはしていますが、保護者は今まで書いていたのも分からないようなのと同じで、分からないのだとは思うんですけど。

○事 務 局　今まで、親が手伝っていたものよりも、さらにクオリティーが上がるかもしれませんけども。

○藤島議長　学校の端末ってどの程度の頻度と、どういう内容に使っているんですか。今みたいに図書的なものというか、そういうものに全く使ってないんでしょうかね。本を読むって、朝読で、ＧＩＧＡスクールを利用しているところも多分あると思うんですけど、それ以外の例えば休み時間だとか、そういうのとか、もっと使えるんじゃないかなと思いますけどね。

○委　　員　休み時間に端末を使うことは可能ですけど、そんなに使っている状況はないかな。朝読書もいろいろあると思いますけど、うちの学校は本を直接読むという形で行っています。特に、先ほど百科事典とかって調べ学習のことが出ていましたけれども、何かが分からないことがあって、図書室へ行って、何か辞書とか事典とか見ることもありますけど、結構、端末で調べるというようなことは、特に中学校で多いかなという気がします。その時間の後に延長して、休み時間ちょっと使うということはありますけれども、特に何か休み時間に、例えば昼休みに外でサッカーしないで、何か調べ学習したいよという子、かなり少ない。

○委　　員　小学校は、例えばテストを必死にやって、早めに終わったら、早く打てる練習のアプリで練習したりとか、先生がこの範囲のものをやっていいよという

ことで、昔だったらテストが終わって、早く終わった子は読書しなさい、そういう対応だったと思うんですが、そこに隙間の時間にすぽっとやるという場面はあります、授業以外でも。

○藤島議長　それってバッテリーなんか上がらないんですか。

○委　　員　充電できるようになっているので、その辺は問題ないんですが、Ｗｉ－Ｆｉの環境がいい教室と悪い教室とありますから、教室内でもうまく作動できるところとうまくいかないところと、その辺は少しある。学校によっても様々な取組が。

○藤島議長　それってあれですよね。文科省のほうで専用の何か回線じゃないけど、ＶＰＮか何かつくって、解消するような方向というのもちらっと聞いたことがあるんですけど、スピードに関しては。要するに、学校内の整備。もっと端末が、サーバーに全校から一斉に集中するからそうなるのだという話はちょっと聞いたことあるんですね。それを解消しようという話をちょっと聞いているんだけど、いつ解消するかは分かんないです。

○委　　員　端末も令和３年の前に急遽入ってきたんですよね。それで、市教委さんもいろいろ頑張っていただいて、かなりよくなってはきています。

○藤島議長　よくなっているというのは。

○委　　員　つながり具合も、令和３年より４年、４年より５年って、かなりよくなってきています。来年ぐらいになると、もうほぼほぼよくなるのではないですか。

○藤島議長　よかったです。この間、小学校に行くことがあって、ちょっと先生に聞いたら、端末でプレゼンみたいなこともできるから、何か社会に出てからすごくいい教育ができるようになったと。

○委　　員　小学校でも普通に打ったり、写真みたいなやつをやっている。それをプレゼンソフトで発表したりとかやっているので、中学校はちょっと工夫の仕方を教えるだけで、かなりのレベルまで仕上がっています。

○藤島議長　そういうのって、ビブリオバトルみたいなので使えないんですかね。自分の選んだものを発表するような感じのときに、そういうふうなプレゼンみたいな感じで、読書感想を作文にして先生に提出するんじゃなくて、みんなの前で感想プラス何かこういう絵だとか、自分たちで作って、要するに楽しむというのかな、ただ読んで発表するだけじゃなくて、何かそういうデザインを描いたり、併せて自分の表現をちょっといろいろと増すというか、そういう工夫というのはやったほうがいいかなと思うんですけど、せっかく端末もあるから、プレゼンみたいなことができるなら、もう一つのテーマに。そうすると、ますます読書自体が面白くなってくるのかなという気がするんですけどね。

○委　　員　今、学習の中で、一人で学習するのもあるんですけれども、みんなの学習を

このタブレット上で交流するというような学習スタイルとか結構あって、そういう中で例えば理科の実験の感想とかを交流したりとか、国語の自分の考えを交流したりというようなこともあるので、読書感想文なんかもいろいろなタブレット上で交流するのもあると、今後ますますタブレットが一つの選択肢として、うまく使っていくことかな。

○藤島議長　タブレット苦手な子っているんですかね。

○委　　員　いるかいないかで言ったらいると思いますけど、勉強苦手な子よりは少ないと思います。かなりのみ込みが早いです。

○委　　員　子供たちのスキルは高いと思いますよ。家庭の中にあっても、どこでもすぐタブレットを全員にという、その以前から家庭の中からスマホを含めてそうですけど、読書の不読率をどうやってなくしたらいいかという前に、子供の環境がほとんどもう全て……。例えば、基本的に読書感想文を書くということじゃなくても、パソコンで打てばできますよね、変換すれば漢字も出てくるし、その基本の読む力や書く力をどうやって育てていくかということの基本的なこと、どうなっているのかなというのもありますし、だから、学校の司書教員の先生方も努力されていると思うんですけど、やっぱり一年一年で評価できない部分って随分ありますよね。読書環境って本当に変わったなって思いますので、電子書籍もあるし、例えば電車に乗っても、皆さん、全部、本読んでいる人は少ない。何しているかというと、スマホで、しかもタブレット持っている方は、電子書籍を読んでいるという大人もいますけど。これだけ激変しているのに、やっぱり基本の読むこと、書くことの力をどういうふうに現場で捉えているのかなということと併せて、さっき絵本でも、普遍的に変わらない、いい絵本というのは廃れないと。夏目漱石だったら、日本文学全集とか。昔は世界文学全集ありましたけど、今は全部。しかもそれを電子書籍で見ようと思えば見られますし、そういう時代になって。朝読も一定の効果があるとは思うんですけど、それをどういう意味で家庭の中も、学校だけじゃなくて、例えば小学校でできたものを中学校で継続できてないというのが現実的にあるのだなって、一つの評価ですよ。中学校になると減っていますよね、不読率って、現実的にね。本当もっと何か基本的な、人としての生きる力の中に読書があったり、書く力があったり、読む力があったりということが、また、話したり、いろんなこと、大体がパソコンとかタブレットとか電子黒板もあるし、今、全てモニター通してやれることはたくさんありますけど、コロナで一番致命的だったのが、マンツーマンの会うということ、子供同士が。それがすごくこの読書にも影響しているし、何よりもそれに関わる先生方が、子供にとっては１００％の立派な校舎よりも、最大の教育環境だと思うので、そこら辺のスキルアップを含めて、先生方、すごく

大きな影響があるんじゃないかなって。スキルばかりじゃなくて、本を読む楽しさとか、そういうことも含めて。読む本がないというんじゃなくて、読む本をどれだけ選択したかっていったら、図書館にももしかしたら来てないって思うんです、学校の図書館自体にね。そういうもっと細かいデータ。一つのことがきっかけで、芋づる式に全部、家庭環境から全てのことにもつながっていくような、読書ってそれだけ私は重いものだなというふうに思っていますけど、評価って難しいなと思いながら伺っています。先生方のスキルはすごく大事ですね。

○藤島議長　読書って、僕もそうだけど、読んでいると、読んでいる想像というか、どうしても想像しますよね。その想像力をやっぱり養うためのものでもあると思うんです。ですから、その想像したものがほかの同じ本を読んだ子供と同じように想像しているのか、それを多分、話だけじゃなくて、さっき言ったように絵にかいてもらったりすると、例えばお化け。具体的に結構描いてあるかもしれないんだけど、やっぱり、多分、捉え方が違ってくると思うんですよね。そういう違うところを話し合うみたいな感じだと、もうどんどん読んだ本を覚えて、いつまでも忘れないということになると思うし、じゃあ、今度、こういう本をみんなで読んでみて、同じことをやってみて、また、どういう結果になるかというのも結構課題というか、楽しく読む作業かなと思いますけどね。ほかに質問。道の子どもの読書活動の概要版ですけども、国や道の、第１章のところの計画の基本的な考え方の左側に計画策定の趣旨とその背景とあるんですけど、それから、右側に国や道の動向ってあって、その下の３行目、道の地学協働活動実証事業「ＣＬＡＳＳプロジェクト」と書いています。これ、どんなのかちょっと分かんないですけど。

○事 務 局　資料６の最後の１枚。資料６の一番最後のやつを１枚めくってもらえば。今、これについてこちらで押さえてるいものはないので、後ほど確認してお知らせする形にしたいと思います。

○斎藤次長　基本的には地域と学校が連携して、協働して、読書のここに持ってくるのがどうなのかという、ちょっとずれているような気もするんですけど、地域と学校が協働で何かこういう活動、その中に読書活動なんかも入ってくるのかもしれないんですけど、それをいろんな自治体でやるための事業というのを、道が進めているというようなプロジェクトだと認識しています。

○藤島議長　実証事業の、実際にやられているんですか。

○事 務 局　そうですね。この中で、実際、具体的に子供の読書活動の推進に係るようなものがあるのかというのをちょっと調べて、あればそれについてはお知らせをします。

○藤島議長　かねてから、よく社会教育でも、地域というのが出てくるんだけど、具体的

に地域と学校を結ぶ、地域と家庭を結ぶ横軸というのは、その時代で相当変わってくるので、何かいつも、そもそももっとはっきり分かるような書き方がいいのかなという気がしたり……。

○委　　員　本を読むというのは、すごいエネルギーと時間が必要で、知りたいことを調べるだけだったら、インターネットでぱっと調べられるんですよね、今は。だから、物を知らないことを苦労して組み立てていくという瞬間が、やっぱり根こそぎから崩されようとしているという状況が、率直に見て感じることなんですね。今、先ほど冒頭に説明いただいた部分で、全部を僕は了解しているわけではないので、不正確かもしれないんですけども、子供の本を守るために、その条件をどうやって広げよう、整理していくのかということを重点に行ってきたんだろうなというふうに思っていて。だから、その点がＤの評価が出てくるというのは妥当なところで、頑張っておられるんだなと思うけども、果たして、条件をそろえたら、子供たちが本を読むのかという問題はやっぱりもう一歩踏み込んでいかないと。とりわけ、なぜ子供が本を読むかといったら、自分で読むかというと、やっぱり知的な刺激があって、みんなが読んでという、そういう環境がなければ。物理的に本があるから読みましょうね、どれでもいいから好きなやつを読みましょうねと言っても、そんな厚い本を読まなくても、ワープロ押せば漢字が出てくるという、議長さんが言われたような環境の中で、どうやってやっていくかといったら、やっぱり親。子供だけじゃなくて、子供に焦点を当てるだけじゃなくて、親も一緒になって読書運動をしていくという視点を持っていかないと、子供だけできないよなというふうに思ったりもするんですよね。だから、その視点での計画が、見た感じでは、これはもしかしたら、これからの作業として残されていく課題なのかなというふうに思いながら聞いていたんですけども。

○事 務 局　今のことも、非常に大事なお話だとは思いますけれども、実際、何のために子供たちに本を読ませているかというのは、それも計画の中で、最終的な目標としては非常に重要なこと、何のために読ませるというか、本当に何のためというとなかなか難しいことだと思います。多分、このアンケートを子供たちを親にかえたらもっと惨たんたる結果になるのかなと思って見ていたんですけど。

○藤島議長　さっきの統計、読む・読まないというのを見たら、平成２５年のを見たんですよ。そうすると、２５年、３０年、令和になって少しずつ下がってるんです。読みたいというのが下がって、読まないというのが上がっているんですよね。だから、ひょっとしたら、今の親と子の間でもって、２０年ぐらいしたら子供は親になりますよね。そうすると、２０年でパーセンテージの上がりを見ると、下がりを見ると、ちょっと恐ろしい想像になっちゃうんですね。

そういう時代に、親と子の関係で育った人たちが、２０年後にまたそのパーセンテージでまた悪くなってという、負のスパイラルというか、そっちに入っちゃうので、これはこの読書だけとは言わない、社会教育全般もそうなんだけど、ちょっと恐ろしいなと。だから、やっぱりこうやって話し合って、少しでもつついていったほうがいいのかなという気がします。

○委　　員　そうかもしれない。今、小学校の子供さんのお母さんたち、お父さんたちの年代が、もしかしたら一番本を読まない年代なのかもしれない、全然根拠のない話ですけども。自分たちの子供を見ていて思うんだけども、そういう時代の人たちは本当に本を読む楽しさを、親が子供に伝えられる能力を持っているか、そういう環境を醸成しているかというところを深めていかないと。今、議長さんが言われたように、１０年後、２０年後どうなるんだというのは、本当にそのとおりですよね。

○事 務 局　目標には到達してなかったかもしれませんけども、大西委員がおっしゃってくれたように、まだ6割、中学生でも本を読んでいるわけですから、まだまだ、ここで何かすれば悪いほうに行かない方法を何か探れるんじゃないかなということで、皆さんの意見を聞きながら、こういった計画をつくっていければいいのかなということで。資料沢山ありますけど、まずは皆さん、これを見て評価をしていただきたいと。それを基にこちらでまた取りまとめをしていきたいというふうに考えていますので、お手間を取りますけども、協力していただければありがたいです。

○委　　員　８２項目もあるんだ。

○委　　員　これ、１９項目ですか。

○事 務 局　ナンバー１から８２まで書いてあるかと思うんですけれども、そのうち、例えば１ページ目をご覧いただきたいんですけれども、具体的な取組ごとに、例えば一番最初の家庭における「家読（うちどく）」への支援というとこのご評価をいただきたくて、右側にナンバー１から８について、「家読（うちどく）」への支援ということで具体的に１から７までなんですけど、ここの全体を、この「家読（うちどく）」への支援ということの中でのご評価をいただきたいということで、この具体的な取組、左下、３項目が全部で１９個ありますので、そこについて、継続、さらに強化、やや弱化といったところを、あとはご意見ですとかアイデアとかございましたら、資料５のところに書いてご評価をいただきたいといったところになります。生涯学習課にメールを送っていただけたら、そちらに資料５のデータをお送りしますので。

○委　　員　この資料で、１、２、３で書いてあった、この評価のほかにコメントがあったらここの欄外に。そういう意味でしょうか。例えば、今開いたのは８ページですが、ここの１、２、３の評価というのは、このくくっている部分に対

する評価を１、２、３でやる。

○事 務 局　そうです、はい。

○委　　員　各項目に対して１、２、３じゃなくて。

○事 務 局　はい。

○委　　員　この１、２、３で評価した上で、ここにランダムにコメントを書く。

○事 務 局　そういうことです。それから、欄でいくと、この一番左からいくと、三つ目の具体的な取組ごとに大体分かれているんじゃなかったかなと思います。

○委　　員　これって、結局あれですよね。この活動計画の項目や取組経過の内容やその評価に対してどうかということになりますよね。それがＡかＢかＣかという感じですね。

○事 務 局　そうです。１、２、３で、継続する、さらに強化。

○委　　員　さらに強化。皆さんが集まったら、もっともっと膨らんだ話がいっぱいになっちゃうと思うので、このことに関しての大まかな答えでいいのかなとは思いますけど。

○事 務 局　そこに、今お話しされたところなんかをちょっと参考に考えていただいたらいいかと思います。

○委　　員　そうですね。

○藤島議長　この評価が終わったら、この評価はどのいうふうに反映されるんですか。

○事 務 局　このスケジュールでいきますと、７月に提出していただいて、この評価を足した計画案というのを９月上旬。第３回の社会教育委員会議のときにお示しする形になります。

○事 務 局　委員の方々のご評価をいただいて、例えばこの項目に関しましては継続して取組が必要だとか、ある程度目標を達成したので、この計画は次期計画には要りませんよねといったところのまとめを、こちらのほうでさせていただいて、委員の方々の評価はこういうものでしたよということをお示しして、それにプラスして、今回取った子どもの読書調査アンケートですとか、国とか道の方針も踏まえまして、新たな案を、第五次の計画案を次回にお示しをしたいなというふうに考えております。

○委　　員　念のために１、２、３の意味をもう一回、確認させていただきたい。社会教育委員の評価として、継続というのは、今までどおり、これからも評価継続してくださいということですね。それをさらに前進させるべきだというのが２になるんですね。

○事 務 局　そうです。

○委　　員　この３は何ですか。やらなくていいよという意味。

○事 務 局　別紙の評価方法を見ていただくといいんですけど、例えばもう既に目的を達成して必要なくなりましたよとか、それから、時代のニーズに合わない、今

はもうこれは必要ないんじゃないかというところで、やや弱化ということで書いてございます。

○藤島議長　そうすると、この評価がベースになって、これは第四次だけど第五次の取組にこのまま出てくるという。こっちで決めてくださいということなんですね。

○事 務 局　はい、そうです。

○委　　員　９月に大体全部まとめて、もうその時点で出来上がりなんですね。

○事 務 局　その都度、具体な事務局案という形のものを提示しますので、それについてまたご意見をいただく形になります。

○委　　員　A評価がたくさんあるんですよ。B評価もたくさんあり難しいな。

○事 務 局　例えばA評価が全部並べて、もう既に全てこれは達成しましたということで外すというのもあるかもしれないですね。

○藤島議長　今度のときでもいいのかもしれないけど、地域という言葉あんまり好きじゃないんだけど、第四次苫小牧市子どもの読書活動推進計画、これが８ページに推進方策２となって、地域における読書活動の推進ってありますよね。この文章を読んでいくと、要するに地域に啓発することが必要ですと書いてあるんですよ、３行目のところに。それを多分、具体的な取組として、右のほうにずっと書いてあるんだけど、果たしてこれが地域という、どのぐらいあるのかとかいうのがちょっと心配なんですけど。８ページと９ページですね。地域となると連携だとか、そういう言い方をするんだけど。

○事 務 局　そうですね。あくまでもこれは第四次のやつなので、もし換えていくということでしたら、その辺りも議論して。

○藤島議長　変えなくてもいいんだけど、具体的に地域、広く地域住民や保護者、子供の読書活動について提案すると。右のページのほう見たら、地域って何かなって思ったら、例えば民間団体の活動に対する支援とかあるんだけど、活動の支援は少し入るのかなと思うんだけど、啓発すること、直接啓発することはちょっとずれているのかなというような感じがしないでもないんですけども。

○事 務 局　確かにそう指摘されると、もう少し具体的に啓発の事業みたいなものがここに入ってきたほうがいいんじゃないかということですよね。

○藤島議長　そうそう。だから、地域に対して、社会教育と同じです。

○事 務 局　そうすると、本当に例えば４番のこの保護者への普及・啓発のところに、具体的なもう少し取組事項が入ってくるという必要がありますよね。

○藤島議長　そうですね。

○事 務 局　分かりました。その辺、五次で、何か具体的に付け加えていくのかどうかというのは、これからのことになるかとは思いますけれども。

○藤島議長　何かほかにありませんでしょうか。

○委　　員　すみません、今日の議題ではないんですけれども、一ついいでしょうか。

○藤島議長　今日の議題をしめるかどうか。なければ、この後ですか、またお話があれば。よろしいでしょうか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○藤島議長　では、大西委員。

○委　　員　第六次生涯学習推進計画がつくられて、あの計画は具体的にどういうふうに今、具体化されようとしてるのかというところを、今日でなくてもいいですけど、ぜひ教えてください。

○事 務 局　これから中身を進めていく中で、途中経過等も評価していく必要があると思ってます。

○藤島議長　いいですか、それで。ほかになければ、今日はこれで閉めたいと思います。

閉会　１５：３６